

はじめに

高次脳機能障がいのある方への支援に関する事業は、平成 13 年度から全国 12 の地方拠点機関と国立身体障害者リハビリテーションセンターが参画し始まった高次脳機能障害支援モデル事業により支援の枠組みが検討され、平成 18 年度から一般事業化されました。徐々にではありますが、支援者の方々が障がい福祉サービスに従事する中で、高次脳機能障がいのある方と出会う機会は増えてきていると思われます。

実際、平成 30 年度に大阪府高次脳機能障がい相談支援センターが、大阪府内の日中活動系の障がい福祉サービス事業所 1,991 か所を対象に実施したアンケート※¹（回答率 39.6%（789 か所））によると、「これまでに高次脳機能障がいのある方を支援したことがある」と回答した事業所が 40.9%（323 か所）でした。

一方で、高次脳機能障がいのある方を支援したことのある事業所でも、支援した人数は「5 人以内」という事業所が 9 割を占め、1 つの事業所で高次脳機能障がいのある方への支援を積み上げることは、難しい状況にあると考えられます。

また、「対応に困った事例がある」と回答した事業所は 91%（293 か所）にのぼり、悩みを抱えている支援者が多いことも分かりました。

そこで、本部会では、障がい福祉サービス事業所の支援者が、高次脳機能障がいのある方の支援に悩んだ際に、どのような点に着目して支援方法を考えていけばよいのか参考にしてください。支援ヒント集を作成しました。アンケートから得られた、障がい福祉サービス事業所が対応に困ったことを項目出し、実際にどのように支援をしたのか実践例を集めました。その他に、自然災害や新型コロナウイルス感染症に関する対応についても知りたいという声を受け、新たに事業所での取組みを聞き取り、事例や実践例を掲載しました。

また、高次脳機能障がいのある当事者や家族が、障がい福祉サービス事業所の職員に望むことについても、コラムとして紹介しています。

高次脳機能障がいは、その症状の他、受傷前の生活や性格、現在おかれている環境などにも影響を受けるため、個別性が高く、オーダーメイドの支援方法が求められます。そのため、本冊子に掲載している実践例は、誰にでも有効な方法とは限りませんが、実際に行われた支援を知ること、よりよい関わりを考える一助になると考えられます。

この冊子が、高次脳機能障がいのある方を支えるみなさまの支援のヒントとなり、一人でも多くの高次脳機能障がいのある方とその家族のより充実した生活に繋がることを願っています。

令和 3 年 3 月

大阪府障がい者自立支援協議会

高次脳機能障がい相談支援体制連携調整部会

※1 「高次脳機能障がいの方の支援」に関するアンケートの結果は下記に掲載しています。
<https://www.pref.osaka.lg.jp/o090160/jiritsusodan/kojinou/index.html#anke-to>



目次

はじめに	1
第1章 高次脳機能障がいのある方を支援する際のポイント	6
・高次脳機能障がいとは	
・支援する際のポイント	
お役立ちメモ ～発症前のことや支援の経過などの情報を整理するツール～	
お役立ちメモ ～高次脳機能障がいと障がい者手帳の関係～	
支援経験者からひとこと	
第2章 支援上の悩みへのアプローチ ～府内事業所の実践例より～	9
・原因を探り、適した支援を考えるために	
1. 集中力が続かない、疲れやすい	12
1-1 作業中にキョロキョロしたり立ち歩いたりします。	
1-2 できないとすぐにあきらめたり、しんどいと言って休んだりします。	
1-3 プログラム中、頻繁にトイレに行きます。	
1-4 作業に集中しすぎて、止めることができません。	
2. 覚えられない、忘れる	15
2-1 作業手順を覚えられません。	
2-2 予定や連絡事項などを覚えられません。	
2-3 人の名前と顔が覚えられません。	
2-4 ロッカーや靴箱の場所を忘れてしまいます。	
2-5 作業室から出ると戻ってこられません。	
2-6 道順が覚えられず、道に迷ってしまいます。	
2-7 事業所内の物を自分のものと思い、持ち帰ってしまいます。	
2-8 会話中に何を話していたか忘れます。	
3. 金銭やスケジュールなどの管理がうまくできない	19
3-1 通所する日時を決めても、予定どおりに通所できません。	
3-2 必要以上に倹約し、破れた服をずっと着ています。	
3-3 身だしなみを整えられません。	
3-4 服薬の管理ができません。	
3-5 お金があると、後先考えずに使ってしまいます。	
3-6 物が片付けられません。	

4. 作業が進まない	24
4-1 手順を間違えるなど、指示どおり作業ができません。	
4-2 流れ作業では、手が止まってしまいます。	
4-3 自発的に作業に取り組むことができません。	
4-4 手順を自己流に変えてしまいます。	
4-5 予期せぬ出来事が起こると混乱してしまいます。	
4-6 少しでも間違えると納得できず、先に進めません。	
5. 気持ちのコントロールが難しい、暴言を吐く、暴力をふるう.....	27
5-1 イライラしたり、怒ったりします。	
5-2 他の利用者に対して暴言や暴力があります。	
5-3 職員が作業途中に指摘すると、急に激怒し、暴力をふるいます。	
5-4 家に帰ってから、機嫌が悪かったり、暴れたりすることがあります。	
5-5 家庭で暴言や暴力が出るため、支援者としては精神科受診が必要だと思うが、本人も家族も拒否します。	
5-6 気持ちが沈むと何もできなくなります。	
5-7 思い通りに進まないと「自分なんていない方がいい」と言って号泣します。	
6. セクハラ行動がある	32
6-1 セクハラ発言・行動があります。	
7. 他者との関係でのトラブル	34
7-1 自分の価値観や考えと異なることを言われると感情的になります。	
7-2 自分とは違う障がいのある方と一緒に活動することに抵抗を示したり、他の利用者に対しての口調が荒かったりします。	
7-3 物事を被害的に受け取りやすいです。	
7-4 周りの人のことを考えずに、自分の欲求を優先してしまいます。	
7-5 異性に誘われると応じてしまいます。	
8. コミュニケーションがうまくとれない	37
8-1 作業内容や手順を伝える時に、本人がどこまで理解しているのか分かりません。	
8-2 作業について説明すると、混乱することがあります。	
8-3 伝達事項について、誤った内容を他の人に伝えてしまいます。	
8-4 解決済みの話を、新たな問題であるかのように訴えます。	
8-5 ずっと同じ話を繰り返すので、周囲が疲弊します。	
8-6 利用者同士でのコミュニケーションがはかれません。	
お役立ちメモ ～失語症の方などへのコミュニケーションの工夫～	

9. 障がいを受け入れられない	40
9-1 自分のミスに気づかず、人のせいにしてしまいます。	
9-2 定期的な通所につながりません。	
9-3 「もともと記憶は苦手だった」と言い、メモを活用しようとしません。	
9-4 本人の「したい仕事」と「向いている仕事」が異なります。	
10. その他本人の言動に関すること	43
10-1 気になるものがあると、取り込んでしまいます。	
10-2 自分で選んだり決めたりすることが難しいです。	
10-3 事実ではないのに、「～された」と被害的に訴えます。	
11. 身体面、健康面に関すること	45
11-1 作業中、てんかん発作が起こります。	
11-2 トイレの失敗が多いです。	
11-3 味覚障がいがあり、食欲の低下からお弁当をほとんど捨ててしまいます。	
11-4 過食などがあり、健康管理の必要性について説明してルールを決めても守れません。	
11-5 服薬を拒否します。	
11-6 転倒リスクがあるため、移動の際は介助者に声をかけるよう伝えても、ひとりで立ち上がろうとします。	
11-7 感染症対策の必要性を伝えても、行動につながりません。	
11-8 コロナ禍で通所自粛のため、ストレスがたまってしまいます。	
12. 高次脳機能障がいの症状が分かりにくい	50
12-1 作業がうまくいかないが、高次脳機能障がいに起因する問題かどうか分かりません。	
12-2 作業中に1人だけ手を止めていると、怠けているように支援者が思ってしまう。	
13. 家族に関すること	52
13-1 家族から、事業所で何をしているのか、本人に聞いても分からなくて困っていると相談があります。	
13-2 家族が本人に多くのことを求めすぎて、本人がしんどくなっているのが心配です。	
13-3 家族内での意見が異なり、継続した通所ができません。	
13-4 家族が災害や事故を心配して、本人の行動を制限します。	
第3章 事業所での取り組み事例	55
【事例1】生活介護事業所の取り組み事例	
「長らく支援につながっていなかったが…」	55
【事例2】就労継続支援B型事業所の取り組み事例	
「感情コントロールが難しく、暴力やセクハラ行動に…」	60

【事例3】就労移行支援事業所の取り組み事例	
「『今すぐ働ける!』と本人は言うものの…」	65
当事者・家族のコラム ～障がい福祉サービス事業所職員へ望むこと～	69
「高次脳機能障がい支援を受けて」 当事者 D さん（30 代 男性）より	
「障がい者支援施設にお世話になって思うこと」 当事者 D さんのお父さんより	
第4章 事業所での対応に悩んだ場合は	
高次脳機能障がい支援コンサルテーションを利用しよう	72
資料	74
資料1. 行動観察シート	
資料2. 行動分析シート	
資料3. PDCA サイクルシート	
資料4. メモリーノート様式例	
資料5. 主な症状と対応のポイント	

◆支援上の悩みは、高次脳機能障がいの症状の他、環境面、心理面、身体面など、さまざまな要因が重なって現れることが多いです。そのため、解説や実践例などには、類似した内容が複数掲載されている場合があります。

◆本冊子で紹介する実践例は、実際の事例をもとに、個人情報保護の観点から内容を加工して掲載しています。

◆高次脳機能障がいの症状や診断基準、福祉制度・種々のサービスなどの基礎知識については、「高次脳機能障がい支援ハンドブック」に掲載していますので、そちらも併せてご覧ください。

「高次脳機能障がい支援ハンドブック」は下記からダウンロードできます。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/5405/r6handbook.pdf>

